

「中国・浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学法学部2年（後藤 里菜）

私は今回、この浙江大学スプリングスクールに参加して、非常に多くのことを学ばせていただきました。

私は第二外国語として二年間中国語を勉強した上での参加でしたが、実際に中国語で進行する授業を受けると、聞き取れない、答えられない、の連続で、いかに今までの自分の勉強が、実用的でなかったかを思い知りました。一方で、様々な国から来たクラスメイトは、勉強し始めて1ヶ月程度であっても、積極的に授業に参加し、自ら中国語で表現しようとしていて、尊敬すると同時に、すごく刺激を受けました。その環境で毎日授業を受けていくと、自然と聞き取れる単語が増えてきて、2週間という短い期間でしたが、自分自身の変化を感じられたことは、とても大きな収穫でした。この成果を無駄にせず、日本でも学習を続け、さらに語学力を高めた上で、再び中国を訪れたいと考えています。

中国という国は正直、日本から行くとなると、とても不便が多いです。例えば、トイレトペーパーが用意されていることは滅多になかったり、特別な設定をしないと、ラインやツイッターが使えない、買い物をするのも、現地のほとんどの人はオンライン決済をするため、現金のお釣りが万全に用意されていなかったりします。当初私は、そういった日本との違いにストレスを感じ、日本に帰りたと思うこともありましたが、しかし、一緒に過ごした京大の友達をはじめ、浙江大学のボランティアさんや先生方、クラスメイトである留学生の友達の優しさに触れ、最後には、日本に帰りたくないと思うほど、浙江大学での生活が楽しく、充実したものになりました。浙江大学で出会えた全ての人に、感謝の思いでいっぱいです。

このプログラムの良い点は、語学学習に加えて、中国の文化や経済について知ることができることです。淡水真珠の養殖を中心に行う企業を訪問した時には、起業から現在に至るまでの経緯と時代背景を学ぶことができ、また、浙江大学の馬教授からお話を伺った時には、中国人の視点から見た日中関係や、中国の環境問題、社会問題について考えることができました。なかなか繊細な問題について、日中双方の状況を理解した人からお話を伺うという、単なる旅行では出来得ない貴重な経験をさせていただきました。

このプログラムを通して私は、自分自身の実力不足や、視野の狭さに気づくとともに、出会ったばかりで、たった二週間しか滞在しない私たちを、心から歓迎してくれる人々の温かさを感じることができました。世界にはまだまだ、私が知らない色々な環境、境遇の中で生きている人がいるのだと思うと、自分には学ぶべきことが山ほどあると感じます。この経験を、一回きりのものにしないよう、自分がこの広い世界の中で何が出来るかを考えて、自分の将来を描いていきたいと思いました。このプログラムに参加して、本当に良い経験が出来たと思います。ありがとうございました。